

## 第3回京丹波町総合計画審議会 会議結果（概要）

日 時 平成18年12月5日（木） 午前9時～午後0時10分  
場 所 京丹波町役場 議場  
出席委員 17人（欠席／3人）

### 1 開会

〔会長あいさつ〕

第2回の開催から日があいたが、その間、それぞれの部会で意見交換をお世話になり、須知高校生との共同研究も行った。

正副部会長会議では、部会の検討結果と須知高校生との研究成果を確認し、基本構想（案）のたたき台の意見交換をした。

今日は、最初に、町の財政状況について谷総務課長から話を聞く。厳しいと聞いても中身がなかなか伝わってこない。もっと早くに話を聞いたらよかったと思うが、今回説明していただくこととした。その後、基本構想（案）の説明を受ける。

審議会のスケジュールでは、12月議会提案に向けて答申を行う予定で議論を重ねてきたが、もう少し議論が必要であることから、間に合わないことを町長に伝えた。町長からは「消化不良の答申よりも、十分に審議されたいうえで答申していただきたい」と言ってもらった。今後の進め方について相談させていただきたい。

### 3 町の財政状況について

〔質疑応答〕

- ・ 公債比率について、畑川ダム建設に伴う起債はあるか。また、数字に入っているのか。  
→ 普通会計で出しているの、数字には入っていない。簡易水道事業特別会計で計上している。実質公債比率には入っている。
- ・ 実質公債費比率が増える原因は？  
→ 瑞穂病院新築、上下水道整備などの起債償還が主なもの。
- ・ 瑞穂病院の起債償還は？  
→ （利子のみの償還から）元利償還が始まる段階である。
- ・ 経常収支比率が93.6%（平成17年度）から108.4%（平成18年度）に跳ね上がっている理由は？  
→ 平成18年度は予算ベースであることもひとつの理由である。決算では下げたい。また、17年度は合併に伴う経費（臨時経費）が多かった。

- ・ 特別交付税の今後の推移は？  
→ 合併の関係で上乗せはされたが、今後も厳しい。

#### 4 基本構想（案）について

〔意見〕

- ・ P 25～28、地域構造では、大きな流れが高原文化・丹波高原でありながら、ゾーニングではそれが生かされていない。和知地区の丹波森林共生ゾーンはそれになじまない。P 28の図では、丹波高原のゾーンから外れていると思われるのではないかと思うので、言葉を少し直してほしい。
- ・ 分野別の施策については基本計画に盛り込むとのことだが、基本構想が基本計画の基礎となるのなら、福祉や保健（健康）をどこかに起こしておいたほうがいいのではないか。
- ・ P 10、流入人口が増えている原因は何か。  
→ 企業立地による就業数の増加によると認識している。
- ・ P 36～37、住民がこの町に愛着や誇りを持つためには、新しいまちの住民の一体性の確保が必要だと思うので、触れてほしい。
- ・ アンケート結果で、「行政と地域ぐるみの福祉活動の充実」も多かったので、福祉についても入れるほうがよい。将来目標像は福祉等の充実を大前提にし、その意味も含んでいるとの説明だったが、町民がそこまで感じ取ることはできないと思うので、福祉という言葉を入れてほしい。
- ・ P 12、観光入込客数が増えているのは良いことだ。集計方法は？  
→ それぞれの施設で出している数字を統計としてまとめられたものである。
- ・ 青少年の健全育成、次代を担う人づくりが重要であることが入っているのでよい。次は、それをどのように展開していくかである。
- ・ P 5、「農牧業」という言葉は最近使わないので、林業も含めて農畜林産物の供給地など使い慣れている言葉に直した方がよい。伝統文化は現状分析をする必要がある。こうした地域資源を生かすことも踏まえておく必要がある。また、限界集落では、集落の維持が難しい。定住人口を確保することが大切であるため、定住対策をしっかりと位置づけることが必要である。
- ・ 非常に崇高な将来像だと思うが、人口は5年、10年ではなく、もっと長年にわたって築

き上げていく必要があると。今ある文化は、そこに住む人が昔から引き継いできたものである。ここは山陰文化や都文化の分岐点。2つの流域文化、昔の文化のルーツをだどることも大事だ。特に料理や言葉、産業、狭義では伝統芸能や伝説などについて詳しく研究して新しい高原文化をつくることも大事である。これらは基本構想に盛り込む必要はないが、今後、学生の力を借りて調べる（大学との連携を活用する）などして、一定の理論を踏まえておく必要があると感じている。

- ・ 世帯数は減らず人口が減るのは、年寄りが残って若者が出て行っているということ。団塊の世代を引っ張ってくるのもいいが、若者の流出を防ぐことが大切である。企業誘致は、町内での労働力の異動のみとなる現実の話があったが、働く場としての企業の誘致が重要だ。教育面も含めたフィールドの整備が大きなポイントだ。また、高原文化がキャッチフレーズとなっているが、文化を生むのは川であると考え。川は文化をつくる基礎となる。川にまつわる文化など、川のポイントが薄い。
- ・ P 37、定住のための受け入れ態勢づくりでは、ふるさとでの暮らしを希望する団塊世代やUターン者への対応が必要であり大切なことではないかと思う。また、P 36、瑞穂ケーブルテレビでは、町内のいろいろなことが放送されている。町の一体化に向けて情報ネットワークの整備を優先的にやるべきではないかと思う。
- ・ 基本構想案は、男性の視点である。私は以前、パートに出ていたが、今は京野菜を作っている。新規就農や生産・流通・販売に力を入れるのと一緒に、主婦にはパートに出なくても地元でできる京野菜づくりなどの農業に支援が必要だと思う。女性に立ち上がってほしい。
- ・ 米の価格低迷の中で、いかに農業で頑張っていくか。米以外のものを生産していく方向での指導者の育成と土壌にあった作物を生産することが必要。農業だけでなく、商業も苦しんでいる現状だ。構想を現実のものにしていくことが大切だ。
- ・ 基本構想案は、うまくまとまっている。町財政の現状を聞いたが、収入が少ないということで、ではどうすればよいか、何か売れるものはないかと考えたときに、京丹波町の歴史を踏まえると農業になってくるのではないかと思う。農産物のブランド化など具体化には人がポイントとなる。構想をグローバルに展開していくには、京丹波町民だけでは難しいと思うので、京都市や東京方面に人にも目を向け知恵と力を借りて取り組んでいくことが必要である。
- ・ 元気が出るように、明るさや元気をもっと強調してはどうか。10年先を見て子どもたちを中心にした人づくりが大切になる。強調しメリハリをつけた構想として町民に提示してほしい。町民にとって合併が暗いイメージでとらえられているので、明るいものを明確に

打ち出してほしい。

- ・ 地域づくりに女性は欠かせない存在だが、女性が入っていない。元気なまちとなるように「元気」という言葉が出てきたらよいと思う。
- ・ どちらかというと、交流人口重視のプロジェクトになっていると思う。もう少し若者が定住できるプロジェクトを検討し、見直していく必要がある。アンケート結果を重視して突出したものが反映されているが、公営（民営）住宅も重要である。現実もみて、プロジェクトを検討してはどうか。
- ・ 全体的にきれいにまとまっている。交流拠点に自然運動公園がある。今年から民間委託されたが、町としてもっと生かす方法がないか。町として利活用することを考えていただきたい。

[会長まとめ]

今日出た意見について、基本構想の部分、または、基本計画の部分もあるかと思う。基本構想に取り込むべきものを検討したうえで修正を加え、正副部会長会議を経て審議会で審議し、1月下旬に答申するという予定で進めてよいか。

→ 出席委員了承

## 5 閉会

[副会長あいさつ]

1月までの私たちの役目は、将来目標像をメインコンセプトとしてきっちり理解し、結集していくよう団結すること。他の地域に負けないで頑張ろう。